

金沢外環状道路海側幹線の魅力発信

石川県 土木部 県央土木総合事務所

1. 金沢外環状道路海側幹線の概要

地域高規格道路「金沢外環状道路海側幹線」は、平成18年に全線供用した山側幹線と一体となって金沢都市圏の外郭を形成し、交通の円滑化を図る重要な幹線道路です。

海側幹線の道路構造は、交通の円滑化及びアクセス強化を目的とした高架・盛土構造の「本線」と、沿道利用や工業団地等産業基盤の支援を目的とした「側道」の計8車線^(※)にて計画されており、平成9年度から事業着手しました。

(※) IV期区間は市街化調整区域内にあり沿道利用が見込めないため本線構造のみで計画

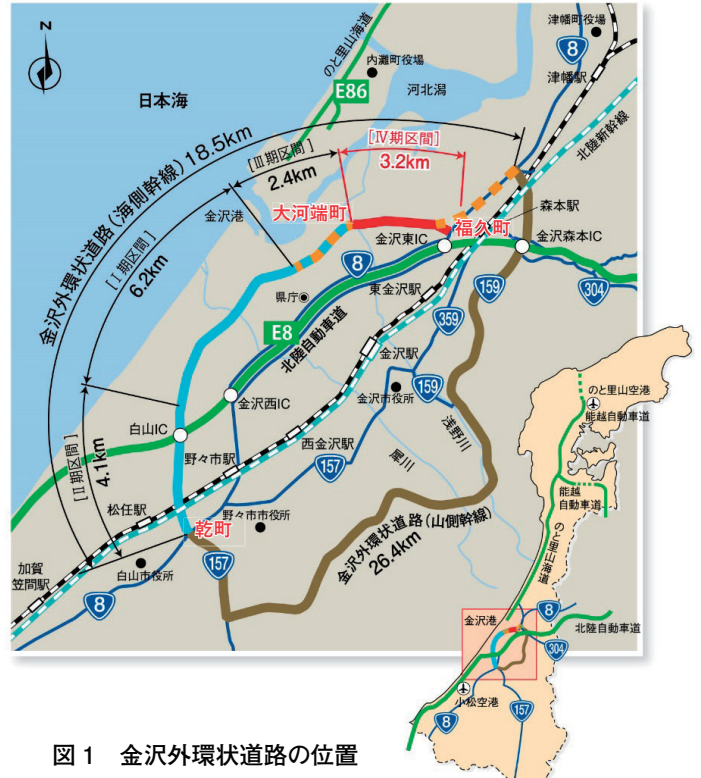


図1 金沢外環状道路の位置

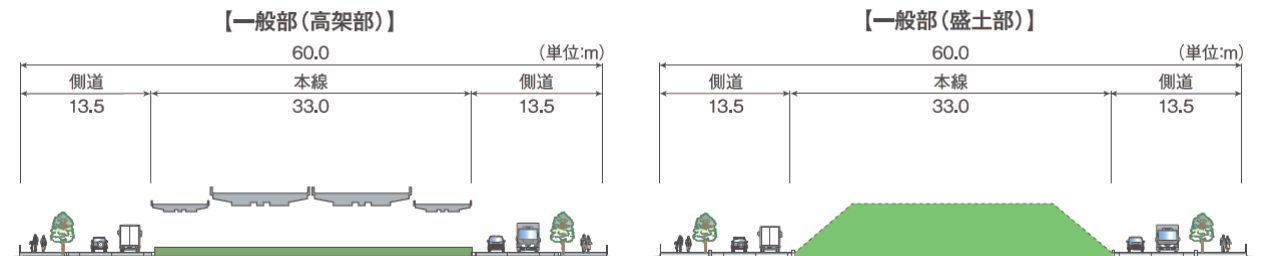


図2 金沢外環状道路海側幹線の横断構成

これまでにI期区間からIII期区間（白山市乾町～金沢市大河端町）までの側道部12.7kmを供用し、交通の利便性の高さから沿道には多くの店舗の出店や行政機関の移転が進みました。



写真1 整備済区間の発展状況

さらに平成 24 年度からは、これに繋がるⅣ期区間（金沢市大河端町～金沢市福久町）3.2km の整備を県と金沢市が連携して進め、昨年 11 月に山側の 2 車線が完成しました。



写真 2 開通後の起点側（大河端町南交差点）の状況

Ⅳ期区間の開通により、山側幹線と海側幹線が国道 8 号を介して接続し、環状道路としての機能が発揮されることにより、金沢都市圏全体の交通に大きな影響を与えるとともに、加賀・金沢・能登の連結による広域交流の促進、金沢港や北陸自動車道、小松空港などの物流拠点間のアクセス強化が期待されます。

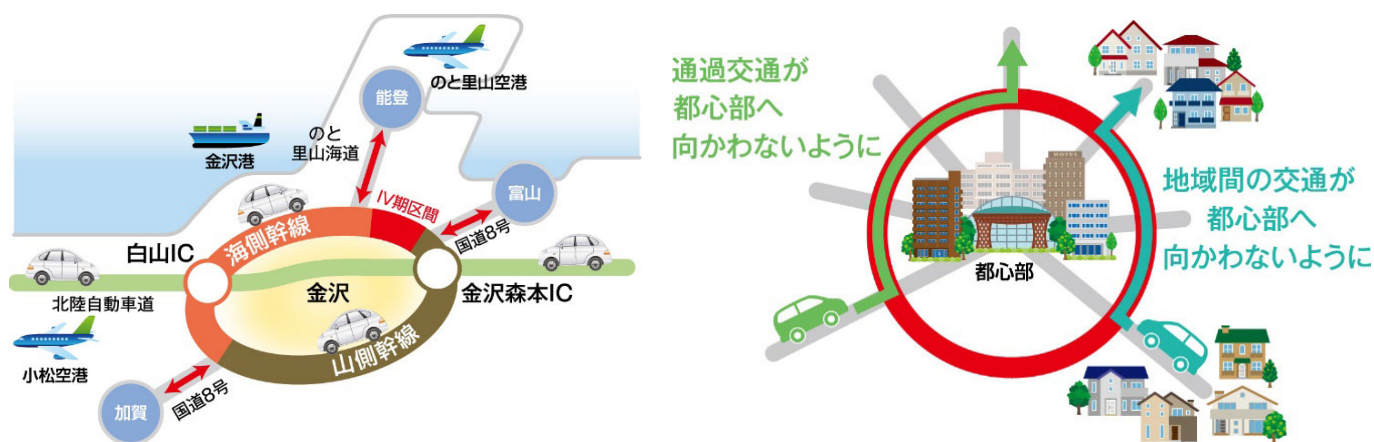


図 3 （左）加賀・金沢・能登の連携イメージ （右）環状道路による渋滞緩和イメージ

2. 整備効果

海側幹線Ⅳ期の開通により、金沢市北部地域と金沢港周辺地域とのアクセスが大きく向上し、海側幹線の交通量が大きく伸びました（表 1 ②）。また、慢性的に渋滞していた国道 8 号や北陸鉄道浅野川線の踏切により交通が分断されていた市道問屋松寺線（写真 3）においては、交通量や渋滞長が大幅に減少するなど交通状況の変化が顕著に現れました（表 1 ③④）。



図4 金沢市北部地域における主な交通量観測ポイント

表1 交通量調査の結果

	開通前(10/4 火)	開通後(11/29 火)	増減率
① 大河端町(Ⅳ期区間)	-	11,405 台/12h	-
② 直江町(Ⅲ期区間)	15,324 台/12h	19,897 台/12h	+30%
③ 諸江町(国道8号)	47,471 台/12h	44,092 台/12h	▲ 7%
④ 問屋町(市道問屋松寺線)	12,490 台/12h	9,661 台/12h	▲ 23%



写真3 市道問屋松寺線の渋滞状況(同時刻での撮影)。開通により朝夕の渋滞が大きく改善

3. 海側幹線の魅力発信

次に、海側幹線の魅力発信への取組について紹介いたします。

本事業は、平成9年度の都市計画決定に基づき整備を進めてきましたが、静かな田園地域を道路が貫くことや、高架道路により地域が分断されることから、事業化当初は地元からの理解が得にくい状況でした。

また、県内の建設業においては、就業者数は減少傾向であることに加え、技術者の高齢化及び若年層の確保・育成が課題となっていたことから、当事務所では地域住民への理解と協力を深めるとともに、将来の担い手確保のために、子供を対象とした様々なイベントを開催することとしました。

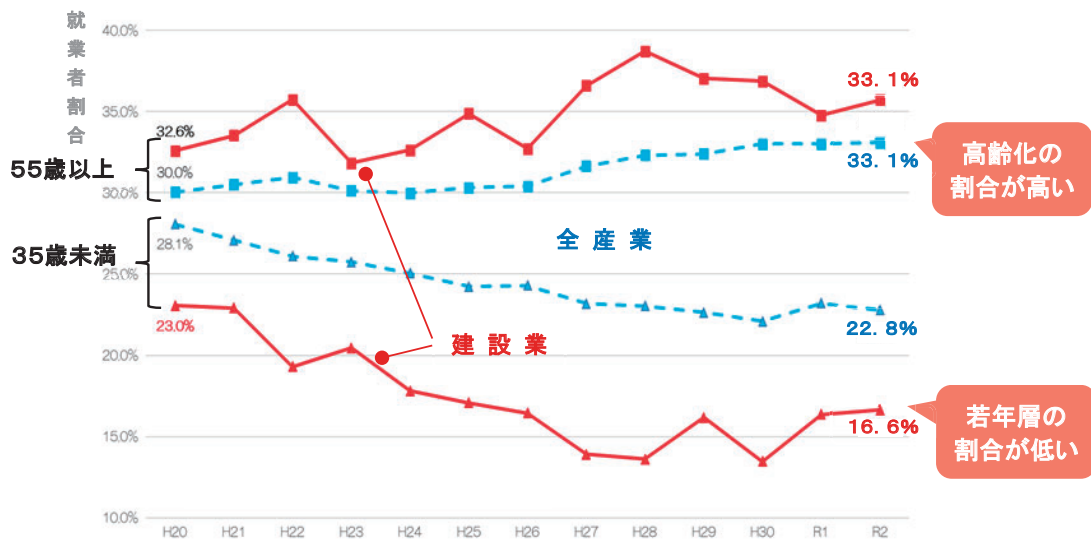


図5 建設業就業者の高齢化の進行 (石川県)

(1) 出張出前講座「建設みらい教室」

計画道路が小学校の通学路を横断していることから、児童に対してどんな工事をしているのか知ってもらうとともに、建設業に対して関心を深めてもらうため、平成28年度より沿線の小学校を対象に橋やコンクリートを題材にした体験学習を実施しています。



(2) 「橋に絵を描こう！」

海側幹線Ⅳ期区間は、アクセスコントロールされた高架構造で整備を進めているため、鉄道や道路、河川を跨ぐための橋梁が5橋整備されました。そのうち、県で施工した「浅野川うみかん大橋 (L=600.6m)」と「大浦高架橋 (L=216.3m)」については、地域に住む親子を対象に完成直前の床版をキャンバスにしたお絵描きイベントを開催しました。



完成した作品を背景にみんなで記念写真



県のキャラクター「ひやくまんさん」



高所作業車から仕上がりを確認
子供達から大人気

(3) 橋名板の揮毫

周辺住民に道路への愛着や興味を持ってもらうため、終点付近に架けた千木新橋 (L=32.9m) の橋名板の文字を地元小学生に揮毫してもらうとともに、完成した橋名板の設置を手伝ってもらいました。



町内で希望者を募り書道大会を開催



橋名板の設置状況

(4) 地元イベント「秋のミニフェスタ」

道路の完成前に、県と建設業者の協力のもと、地元町会による開通直前の道路を開放した大規模なイベントを開催しました。当時、新型コロナウイルス感染者数は減少傾向にありましたが、各コーナーで消毒を行うとともに、飲食をテイクアウト限定にするなど感染対策を徹底しました。その甲斐あって当日は、多くの住民が集まり、イベントを楽しみながら供用前の道路を歩いてもらいました。



地元消防団による梯子のぼり



地元中学生による落書き(蓮の花をデザイン)



測量機器を使ったクイズラリー



建設業者によるミニカートコーナー

4. おわりに

平成9年度から着手した金沢外環状道路海側幹線は、26年の長い歳月をかけて15.9kmのバイパスが開通いたしました。その間、多くの先輩方の思いを引き継ぎながら事業に邁進してきたことから、開通の瞬間は感無量でした。

海側幹線周辺地域は、他の地域と比べても飛躍的に発展し続けており、利便性が大きく向上しましたが、一部地域においては新たな渋滞が発生していることから、引き続き四車線化による交通の円滑化を図るとともに、金沢外環状道路の魅力発信を続けていきたいと考えております。